

研修
レポート

令和元年度ボランティア週間(10.19~10.27)での取り組み
ボランティアリーダー研修、ボランティアコーディネート研修

★ボランティアリーダー研修

10月19日(土)にボランティアリーダー研修を行いました。今回は、「活動しやすいグループにするために、モチベーションをあげるためのリーダーの行動について考える」をテーマに、ボランティアグループや校(地)区社会福祉協議会のリーダーの方々20名に受講頂きました。まず、最初に「私たちの日常とSDGsにおけるボランティアの役割」と題して、北九州市企画調整局SDGs推進室 三角係長より、SDGsに関する北九州市の取り組みやボランティア団体の役割をわかりやすくお話しして頂きました。その後、北九州市立大学の坂本准教授から、「現状の課題を見つけることで次の展望を探る」と題してご講義頂き、その後、グループごとに問題点、解決方法などを一緒に考え、それぞれ発表をしました。受講者からは、リーダーとしての資質の向上につながったと好評でした。



★ボランティアコーディネート研修

10月25日(金)にボランティア受入担当者を対象に施設、利用者、ボランティア、担当者それぞれにとってプラスになるコーディネーションとは「何か」を学ぶため、養護老人ホーム 徳寿園 宮崎園長(社団法人北九州市障害福祉ボランティア協会理事)をお招きし、ボランティアコーディネート研修を行いました。普段接点のない異業種(高齢・障害・保育施設など)でのグループワークでは、互いにボランティア受入れについて意見を交わすことで刺激を受け、新たな視点で気付きを得る良い機会になりました。ボランティアを一個人として尊重し、「笑顔は愛のはじまりです」と説いた先生の講義は、受講者皆様の心に届いたのではないのでしょうか。ボランティア受入れに対する意欲、理解が高まり、この学びを自施設で共有し、相互が気持ちよく活動できる場が広がってほしいなと感じました。



研修
レポート

北九州市社会福祉大会記念講演会
地域福祉活動指導者研修(トップセミナー)



令和元年10月27日(日)、ウエルとばた大ホールにて、社会福祉大会の記念講演会として地域福祉活動指導者研修(トップセミナー)を開催し、約550名の地域の方々にご来場いただきました。

今年度は、九州大学大学院法学研究院 嶋田教授をお招きして、「地域のつながりを取り戻す!~あなたが動けば地域が変わる~」というテーマで、地域共生社会についてなどわかりやすくご講演いただきました。

講演の中で、地域共生社会を実現するために、住民主体の地域活動を横につなげていく重要性、外部資源(施設など)とのつながりの

大切さ、いかに地域住民を巻き込んで活動につなぐことができるかなど他の地域での事例を交えてお話いただきました。また、余力があるから支えるのではなく、支え合っているから誰かを支えられるため、みんなが支え合うことで幸せに生きる社会を共に目指していくための方向性についてもお話いただきました。

参加者からは、「住民や地域にある施設等と協力・支え合いながら地域共生社会を進めていかなければならないことを考えることができた。」「成功事例からたくさんヒントを得ることができ、自分たちの地域に合わせてできる取り組みについてみんなで話し合っていく」と感想を多くいただきました。

この講演から、地域のつながりを取り戻すために、事例を通して、地域と各種団体が連携することのメリットなどたくさんヒントを得ることが出来ました。今後も地域の関係者が連携することで、本会の理念でもあります「みんなが安心して暮らせる支え合いのまちづくり」を目指していきたいと思えます。

市民ふれあいフェスティバルを開催しました

令和元年10月27日(日)、「福祉文化の交流 ~共に生きよう つながるこころ~」をテーマに、新元号になって初めての市民活動の祭典「市民ふれあいフェスティバル」がウエルとばたで開催されました。

好天にも恵まれた会場には、支援バザーやパネル紹介、演芸などの応援に幅広い世代の方2,509人が来場されました。

今回は大学生による被災地での災害支援活動報告会などをメインに、パネルや映像を通して災害の状況や、学生・ボランティアがいろいろなカタチで復興支援をしていることについて学び、災害を「自分ごと」としてとらえるきっかけとなる報告会となりました。会場には災害支援も兼ねて、朝倉地方から旬の野菜や工芸などのバザー出店をいただき大盛況でした。

また、フェスティバルに併せて、ご家庭で眠っている食品などを集

める「フードドライブ」も実施し、玄米30kgをはじめ、多くの食材をNPO法人フードバンク北九州ライフアゲインに届けることができました。ご協力ありがとうございました。令和2年度もボランティア力を生かした「市民ふれあいフェスティバル」を目指します。



被災地支援バザー



大学生による被災地支援報告

シリーズ福祉エッセイ「しあわせづくり、ひとづくり」②8

笑顔は愛の始まりです

先日、「ボランティアコーディネート研修」の講師をさせてもらいました。口下手(?)で伝えきれなかったことを、この紙面に書かせてもらいますね。

僕のボランティア活動の原点は、マザーテレサが運営する施設「死を待つ人の家」にあります。

もう30年以上前の若かりし頃、この施設で2週間ほどボランティア活動をしていました。その頃のインドは、開発途上国と言われ、施設があったカルカッタは、世界のゴミ捨て場と評されるほどで、街中にゴミ捨て場の山があり、そこで生活している人も多数いました。

この施設には、そんな路上生活をしていた人たちが担ぎ込まれてきました。すでに意識もなく、そのまま亡くなっていく人もいて、このような情景が静粛に整然と繰り返されて、僕はただオドオドと立っているだけでした。

一方、世界各国から来ていたボランティアたちは、泥や糞尿にまみれた人を拭いてあげたり、ケガの治療をしてあげたりと、彼らのテキパキ活動する姿を遠くで見ていると、何もできない自分が情けなくなってきました。

こんな僕を見かねてか、邪魔になったのか、ある強面のシスターが話しかけてきました。「YOUは何しにこの国に」と、英語力もないけど多分そうだと思います「ボランティア」と答え、そして「何をしたらいいの?」と尋ねました。



社団法人
北九州市障害福祉ボランティア協会

理事 **宮崎 浩** さん

「スマイル」そう言って、あの強面のシスターの口角が、「ニツ」と上がったのを憶えています。

とりえず、「エヘッ」と笑顔をつくってみました。不思議です。何だか、意欲がわいてきたのです。

広いフロアに粗末なベッドが50床ほど、僕は横たわる人たちに挨拶して回りました。もちろん「スマイル」で。

すると、声がかかりました「足をさすってくれ」。また違う人からは「薬を塗ってくれ」。そして、日を追う毎に「爪を切ってくれ」「ヒゲを剃ってくれ」などと、次々に声がかかるようになりボランティア活動が楽しくなってきました。

ある日、「手を握っていてくれ」と頼まれました。弱弱しく細い手。僕は、彼の手を握りしめ「明日も」と。でも、翌日、施設に彼の姿はありませんでした。

マザーテレサは言います。「笑顔は愛の始まりです」振り返ると、あの時の「エヘッ」という笑顔が、僕のボランティア活動の原点となったように思います。

煩惱にまとわれた僕が、たやすく愛など語れませんが、ちよっぴりマザーテレサの愛に触れた出来事でした。

受講者
募集

社会福祉法人の社会貢献活動セミナーを開催します!!

社会福祉法人の地域における公益的な取り組みが責務化された背景には、既存の制度では十分に対応できない方々に対する支援が求められていることや、社会福祉法人の持つ専門性や機能を活かした支援を行い、社会福祉法人としての使命を発揮していくことが求められていることなどがあります。

昨年8月に社会福祉協議会と市内の各種別社会福祉施設協議会とが相互協力協定を締結しました。この協定を通して、社会福祉法人の責務である「地域における公益的な取組」の実施などを通じて、さまざまな地域の生活課題や福祉ニーズに総合的かつ専門的に対応していくことが期待されています。

今回は、社会福祉法人の「地域における公益的な取組」について考え、今後の実践につなげていくことを目的に開催します。

- と き / 令和2年3月10日(火) 13:00~16:00
- と ころ / ウエルとばた12階H・I研修室(戸畑区汐井町1-6)
- 参加費 / 無料(定員60名)
- 申込み / 2月26日(火)までに電話(☎881-6321)でお申込下さい。

